

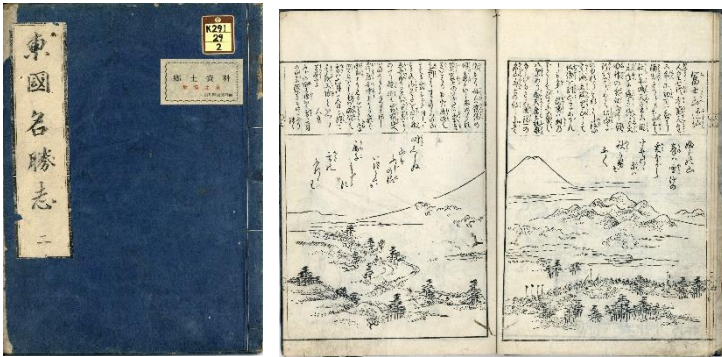
とうごくめいしょうし

#4 東國名勝志

作者：鳥飼酔雅（とりがい・すいが 1721-1793）

画：月岡丹下（つきおか・たんげ 1710-1786）

刊行：宝暦12年（1762）



[K291/29]

📖 解題

■ 内容

地誌。5巻5冊からなり、別称を『絵本東国名勝志』という。北海道の島から東北の青森、岩手、宮城、栃木、埼玉、静岡、三重等の東国の名所旧跡と、その歌枕にまつわる古今の名歌を合わせて紹介している。巻頭は「日の出の浜」で、東の最果ての想像上の場所であるが、関東よりさらに東の日の出る所、千島を指しているのではないかといわれる。佐々木忠慧は「東国賛美」であり、民衆の深層心理にある東方賛美の理念を具現しているとしている（『東国名勝志－東国歌枕名所集』）。

神奈川県内では、川崎、神奈川、江の島、大磯、鴨立沢、箱根、足柄山などが紹介されている。

本書は寛政9年（1797）刊の『東海道名所図絵』以前に書かれており、万治年間（1658-1661）に刊行されたと思われる『東海道名所記』（浅井了意）

より成立は後であるものの、名所を絵図と共に描いた名所図会の先駆けとして意義がある。しかし、今日、本書が注目されることはあまりない。そこに描かれているのはいわゆる歌枕であるのだが、内容に正確さを欠くものもある、として、佐々木忠慧は前掲書において補訂を施したうえで東国歌枕名所集を編集している。

■ 作者

作者は鳥飼酔雅。別名を吉文字屋市兵衛。酔雅朧月、定栄堂、洞堂とも号した。書肆の3代目で、家業の傍ら自作を出版していた。『伊勢道中行程記』、『絵本源氏物語』など40点を越える著作がある。本書の刊記にも「鳥飼市兵衛」名義で版元に名を連ねている。

画家、月岡丹下は江戸時代中期、近江国日野に生まれた。本姓は源、名は昌信、字は大溪、号は雪鼎（せつてい）、信天翁、桃漪、露仁斎、錦童など。絵は高田敬輔に学び、のちに西川佑信を慕い、月岡派を形成して関西浮世絵の中心的な存在となった。天明6年（1786）、77歳で没した。

📖 本文を読む

<影印>

「東国名勝志」（『東国名勝志—東国歌枕名所集』佐々木忠慧編 新典社 1987）
[K291/29A]

<影印・翻刻>

「東国名勝志」（『日本名所風俗図会1』角川書店 1987）[291.08/25/1]

📖 参考文献

佐々木忠慧「解題」（『東国名勝志—東国歌枕名所集』佐々木忠慧編 新典社 1987）[K291/29A]